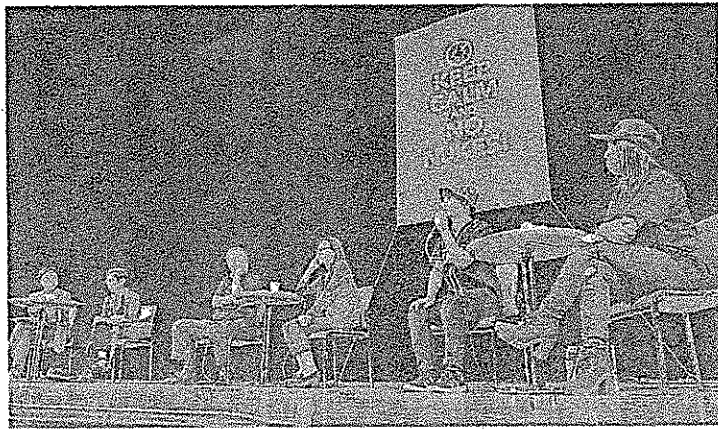


トークイベントで語る（左から）鎌仲、上野、金子、香山、奥田、ミサオ・レッドウルフの各氏＝22日、東京・日比谷公会堂



ミサオ・
レッドウルフさん

安倍政権倒し原発止める

奥田 愛基さん

民主主義は参加してこそ

鎌仲ひとみさん

話し合える場づくりたい

反原連がイベント

原発ゼロ、再稼働反対を求めて22日、首都圏反原発連合（反原連）が東京・日比谷公会堂で開いた「KEEP CALM AND NO NUKES」。トークセッションや講演、アーティストによるライブがおこなわれました。

トークセッションには、精神科医の香山リカさん、慶応大学教授の金子勝さん、映像作家の鎌仲ひとみさん、社会学者の上野千鶴子さん、シールズの奥田愛基（あき）さんが出演。原発再稼働や、安倍政権の暴走をどう止めていくかなどをテーマに話し合いました。

進行を務めた反原連のミサオ・レッドウルフさんは、運動によって民主党政権は「2030年代原発ゼロ」を決めたが、安倍政権はエネルギー基本計画で原発推進にかじを切ったと指摘。「原発を止めるために、安倍政権を倒さなければなら

ない」とのべました。

「安保法制反対では若者の思いに引きずられて行動した」と切り出した上野さんは「3・11以降、首相官邸前での、うまずたゆまぬ運動の継続があったからこそ、今の風景が生まれた」と強調しました。

香山さんは「みなさんが抗議の場をつくり続けてくれたから、私も自主的に声をあげることができるようになりました。自分は孤独ではないと思えるようになりました」と語りました。

原発事故を扱った映画の上映会をおこなっている鎌仲さんは「今はまだ声があげづらい人にも、自分には何ができるかを考え、話し合える場をつくっていききたい」と発言。

金子さんは「生きるための言葉をつけたときに、民主主義は力をもつと思う。そのために主張し、安保法制や原発再稼働など、おかしいことには声を出していきたい」と話しました。

「全国各地で『今やらないう』と思いつく、行動する」という連鎖が起きて、今の状況が生まれていると思う」と話した奥田さん。「民主主義は、制度としてあるだけじゃダメで、人びとがちゃんと参加しないと劣化していく。民主主義とは他者と生きる能力だと思えます」と語りました。